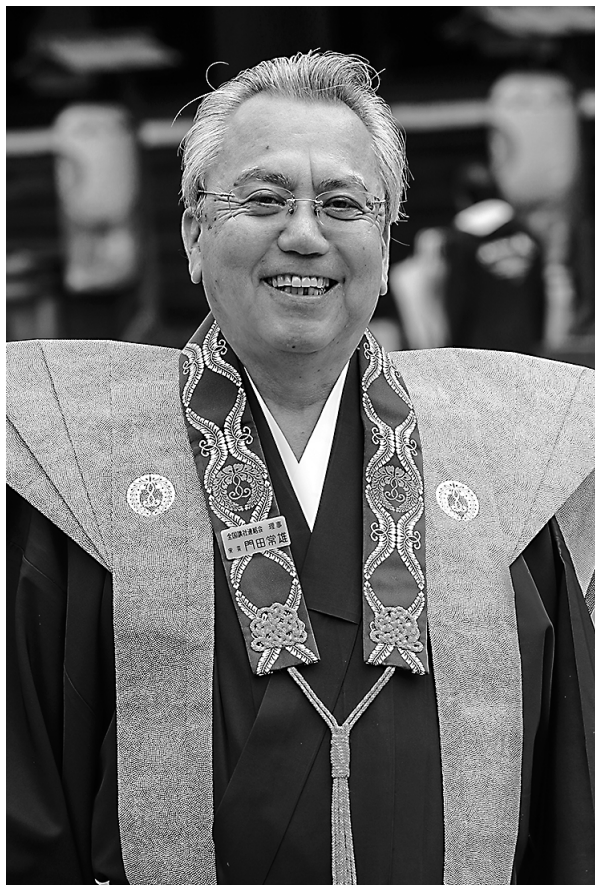




各地で聞法に励むとともに、物心両面から本願寺の護持・発展に寄与する講社。その244講社で組織する本願寺全国講社連絡会の会長を、4月から務める。

就任早々、4月14日に開かれた全国講社大会の挨拶では、参加者に向けて開口一番、「講員の高齢化が講社離れや活動の停滞につながっていると聞くと、講社を含め寺院だけでなく、地域のさまざまな活動団体も同じ悩みを抱える。しかし、高聞名講の講長のほか、浄徳寺の門徒総代長も務める。それは、聞いたことを地道に伝えるきっかけを作ってくれた」と力説。「ご門主さまのは、篤信な姉」と振り返る。

「念仏相続は、家庭から」

トテープを、通勤途中に車の中で聞き続けたという。「おかげで毎週日曜のお寺のお朝事に自然と参拝できた」。

そして、双恵さんにな

らい、お寺との縁がない友人や趣味の囲碁仲間を積極的に寺へと誘う。

「私からきっかけを作ることが大事。ある会報にも、仏教では生死と書いて『しょうじ』と読む、その理由は、お寺へ参って聞いてくださいと書いた」と笑う。

「講社の課題である相続は、まず家庭から。家族みんなが門徒であると自覚が持てるよう、私たち講員一人一人が念仏相続の大切な活動をしていきたい」。68歳。



かど た つね お
門田 常雄 さん
(本願寺全国講社連絡会会長)

本願寺全国講社連絡会の会長に就任。
「高齢化が課題だが、高齢だからできることも」